

行 会 ってこーわい ってこーわい

「大間地区『火流し』」

わらの火で故人を迎えて送る
お盆の伝統行事

No.84

有明川の夕暮れ、パチパチと「わら」の音を立てながら、川面が夕日と炎のオレンジ色に染まり、幻想的な風景が広がります。

お盆になると有明川に広がるこの風景は、大間地区の伝統行事の「火流し」です。8月14日、地区の子どもたちが「早く戻っておいで」と声を掛けるため、お墓参りへ。その後、川に下りて板に乗せたわらに火をつけ、下流まで引っ張って故人の霊を迎えます。そして翌15日には、同様にして故人を送っています。「戦時中、電灯の光を隠していたときも行われていたと聞いています」と話す郷田区長。その言葉の通り、川沿いには多くの地区住民が集まり、地区ですと大切にされてきた行事であることが伝わります。

しかし、時代の流れで地区の子どもは減少。燃やすわらの量も減ったといいます。その中で今年、この伝統行事に新しい風が吹きました。「熱いより楽しい方が大きかった」と口をそろえるのは、小中学生の女の子たちです。今年から希望者が川の上から見守るだけでなく、中に入って火流しを行いました。「にぎやかな方がいいからね」と郷田区長が話すように、今年の有明川は子どもたちの元気な声が一層響いていました。

そして、わらを燃やし切ると、「来年も参加したい」と意欲を見せる子どもたち。これからも伝統ある火流しは受け継がれていくことでしょう。



1. 多くの人に見守られて 2. 空と川のオレンジが映える 3. 火流しをした子どもたち

編集後記

江戸時代から歴史がある「はんぎり」。手を替える品を替え、現在へと繋がっています。時の城主が「もう一度みたい」と競争させたり、「はんぎりをアピールしよう」と祝賀行事で行ったり、「町民全体で行よう」とお祭りの中で行ったたり、「コースが長すぎる」と船がゴールになったり。その変化（進化）のきっかけは、いつも誰かの声でした。皆さんは今回のはんぎり競争を見ていかがでしたか？（松田）

広報3年目となり、以前に取材した行事に再び伺うことも増えてきました。昨年を思い返しながら取材に行きますが、火流しでは女の子が川に入り、まさき音頭では海外高校生が参加し。同じ行事でも、昨年と全く同じ表情をすることはありません。皆さんも「例年どおり」と思わず、まずはどの行事も、その場に出掛けてみてはいかがでしょう。（久保）

Proud! Japan

県民大衆の発展を支援しよう

広告

トラクター☆バイク
現金 買取り!
サビついて動かなくても大丈夫
出張査定 **無料**
電話 090-1328-7635
エコ寅 代表 松室 純平
〒791-3161 伊予郡松前町神崎 624

広告

お客様の立場に立った「こころ」で対応いたします。
一般社団法人「明日への証をあなたに」
遺品整理士認定協会 認定資格
遺品整理士 地区総括会員
遺品査定士 不正防止特別会員

まごころ プランナー
心路 こころ
TEL・FAX (089) **989-0703**
〒799-3111 伊予市下吾川
携帯: 090-1174-6375

無料出張見積/ご相談受付中

生前整理
遺品整理
空き家の処分
部屋・お庭・お墓のお掃除

有料広告募集中

掲載場所 裏表紙の最下段
広告料 20,000 円/枠 (1 カ月)
大きさ 縦 40 ミリ×横 60 ミリ
カラー フルカラー
総務課広報情報係 ☎ 985-4132